

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

作成者：山根亜希子

○8月14日～

先週は週明けから円安が進み、145円あたりまでドル／円は上昇して終わっています。

7月初めには145円をピークにその後急落して137円台まで下げたので、ここからどれだけ上昇できるのかは未知数です。

先週発表された米国の消費者物価指数が予想より弱かったことで、インフレ警戒感はおさまっています。ただし、FRBのインフレに対する見方は厳しく、金融引き締めはまだ続く可能性があります。さらに、米国の長期金利は高い状態が続いています。

現在は昨年秋の高値と同じくらいの水準にあります。4.3%を超えてくると5%を目指す動きになってくる可能性があります。

この金利上昇でハイテク株など米国のグロース株に逆風が吹き始めています。

日本の長期金利は0.6%程度で落ち着いているため米国の長期金利上昇がドル高要因にもなっています。

原油価格が6月末から上昇しており、この流れが続くかどうかもお見せたいです。

米国株は勢いが弱く、崩れてくるとマーケット全体がリスク回避的な動きとなりそうです。

お盆以降は、企業の決算発表も少なくなり、株価が上昇する要因が減ってきます。

お盆前後は株価が下落し、円高になることも多いので、リスク管理しながら慎重に取引したいです。また、最近中国の話題が少ないですが不動産セクターの不安は継続しているため中国発のニュースにも気をつけておく必要があります。

今週は日本の全国消費者物価指数の発表がありますが、すでに米国の消費者物価指数とあまり変わらない数字になってきています。

日本の金融政策の行方がどうなっていくかにも注目が集まっているので、しっかりチェックしておきたいと思います。

● テクニカルで見た重要ポイントは？

<ドル／円>

先週はドル高が進みましたが前回高値の145円あたりまできているので、警戒ゾーンに入ってきました。

下値は144円あたりにサポートがあるので、ここを割り込まない場合は強い動きが続き、145円超えの可能性が高まります。

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

ただし、何かのニュースをきっかけに急落するリスクも出てくるので、高値を追いかけて買っていくのはリスクが高そうです。

144円を割り込んでも8月前半の141円台半ばを維持している間は大きく崩れてくるリスクは少ないと思います。

上昇トレンドが続いている間は押し目買いで下がってきたところを買っていきたいです。

下値が141円を割り込んでくると7月につけた安値の138円、137.2円あたりまで下落するリスクが出てくるので注意がいります。

<気になるクロス円>

クロス円も上昇しているペアが多いですがオセアニア通貨は弱い動きが続いているため注意がいります。

ユーロは158円を超えてきたことで、テクニカル的には上昇トレンドが続く可能性が出てきました。ただし、一度下がってくる可能性もあるので買う場合は、しっかり下がったところを狙いたいです。カナダドルは先週上昇が続きました。108円を超えてくると6月後半から7月初めにつけた高値の109.5円あたりが視野に入ってきます。

ランドは7.5円あたりで反発してきそうですが週足、月足ともチャートの形がよくないので、買う場合は、計画的にどのあたりで買うか検討してからがよさそうです。

*クロス円とは円との通貨ペアの総称：〇〇／円というような通貨ペアのことです。

<今週のファンダメンタル？>

日本では4-6月期GDP(速報値)、7月貿易統計、6月機械受注、7月全国消費者物価指数などがあります。

米国では7月小売売上高、8月ニューヨーク連銀製造業景気指数、6月対米証券投資、7月住宅着工件数、7月鉱工業生産、FOMC議事要旨、前週分新規失業保険申請件数、8月フィラデルフィア連銀製造業景気指数、7月景気先行指標総合指数などが発表されます。

欧州ではユーロ圏とドイツで8月ZEW景況感調査、ユーロ圏で4-6月期GDP(改定値)、6月鉱工業生産、7月消費者物価指数(改定値)などがあります。

ほかにはニュージーランドで政策金利、カナダと英国で7月消費者物価指数の発表などがあります。